平成二十年度　小論文試験

ⓐ［　　］

基本的な自由を与えられながらも、パブリック・スクールの学生はまず規律を身につけるため激しい訓練を受けるが、その手段としてもっとも重視されているのが運動競技であることは周知の事実である。スポーツはイギリス人にとって信仰であるともいわれるが、ある意味では決して誇張ではないといえる。少なくともスポーツのもつ役割を無視してパブリック・スクール教育の価値は考えられないし、スポーツの行われないパブリック・スクール生活がいかなるものであるかは想像もつかないのである。さらに、スポーツをともなわないイギリス人そのものの生活が考えられないといってもよい。

クリケットで「センチュリー」といえば、打者が一回に百点またはそれ以上をスコアすることで、その価値はホームランに当たるかも知れない。ホームランは一瞬の出来ごとですむから、打者の神経には数時間かかって叩き上げるセンチュリーの方が辛いといえるであろう。

在学中二十回のセンチュリーという大記録は過去五十年間近くこれに迫るものもなく、投球術の発達した近代クリケットにあっては、その①コウシンは永遠に不可能とさえ考えられていた。

したがって、すでに十九のセンチュリーを記録して在学最後のシーズンの最後の試合に臨んだ選手が現れたとき、彼に対する学校内外、否、全英国の興味と期待には並々ならぬものがあった。クリケットでは、一回の試合に、打者は二度登場する。

第一日目に彼は百二十三点を獲得して、この記録をタイにした。新聞のトップニュースとなり、全英国は⑥固唾をのんで翌日を待った。第二日目の午後早々輝かしい新記録樹立の衆望を担って打者となった彼は、次第に点を重ねて、夕方近く遂に八十、八十五、九十と迫った。何とかして打ち取ろうとした敵方は、すでに三人の投手を換え、全員爪先で立っていたが、スコアボードは、九十三、九十五ときざみ、遂に九十九と出た。ドタン場である。それまで「針の落ちるのも聞こえる」ほど②セイジャクだった観衆の間から、遠く足元を地下鉄が通ったような、ゴーッという③クモンのどよめきが起った。と、今まで守備についていた敵方の選手たちが、誰からとなく走り出してパヴィリオン（選手の控え室）に入ってしまった。戦場④ホウキである。およそスポーツに親しんだものなら、このときこの打者の打った球をとってアウトにできるものはいないだろう。一人残った投手は天を仰いで一息つくと、思い切って運命の一球を投じた。

お姫様のように優しい⑤スナオな球が、コースのド真中を緩やかに流れて来た。打者はただバットを差出してそれに触れればよい、手許狂ってフライを打上げても、それを捕る敵方はグランドにいないのだから。

途端に、何と思ったか、打者は二、三歩左に踏み出すと、およそ球とは三尺も離れた空間に向ってバットをクルリと振りまわした。球はウィケットをパッと倒す。アウトである。打者は、右手に帽子をとって軽く一礼すると、パヴィリオンに向って歩き出した。このころになってようやく審判が正気に返って、泣き出しそうな声でアウトを宣告した。さらにしばらくして、観衆ははじめて事のいきさつがわかった。茫然として見送る彼らの中を、右手にバットを提げ、胸を張り、グッと顎を引いて、ノッシノッシとその男は歩いて行った。ようやく拍手が起る。嵐の拍手、その中をノッシノッシと歩いてゆく、顎を引いて。

「馬鹿なやつで」

「ああいう馬鹿もののいる中は、まだまだわが帝国も・・・・・・・」

暑くもないのに慌てて縞ハンケチで眼の汗を拭きだした白髪の先輩達は、ⓒ相顧みて膝を打ったという。

池田　潔『自由と規律』（抄）

問一　本文の要旨を示すため、ⓐ［　　］に入れるべき表題を15字以内で書きなさい。

問二　本文中の①～⑤の語句を漢字で書きなさい。

問三　⑥固唾の読みを書きなさい。また、その意味を20字以内で書きなさい。

問四　ⓒ「相顧みて膝を打った」の意味する内容として最も適切なものを選び、その記号を書きなさい。

ア　二十回の「センチュリー」タイ記録を達成したこと

イ　相手選手がパヴィリオンに入ったこと

ウ　投手が優しいボールをコースのど真ん中に投げたこと

エ　意図的に自ら空振りしてアウトになったこと

オ　観衆が嵐のような拍手をしたこと

問五　「イギリス人にとってスポーツとは何か」について、著者の考えを350字から400字以内で書きなさい。

（注）　クリケットは野球と似たスポーツです。投手が投げたボールを打者が打ち返し、守備の選手が処理している間に、打者が走って得点を稼ぎます。規定回数まで攻撃し、チーム総得点が多いほうが勝ちます。

聖マリアンナ医科大
検
20.2.10
収
教育課